

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672800071		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	グループホーム 梅林園		
所在地	〒610-0113 京都府城陽市中芦原55番地		
自己評価作成日	平成25年2月21日	評価結果市町村受理日	平成25年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamapp/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aResult?OpenAgent&P=1
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1「ひと・まち交流館 京都」1F
訪問調査日	平成25年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員それぞれがアイデアを出し合い、協力する事でグループホーム独自の取り組みが充実している。 ・職員一人ひとりが利用者様及び家族様の信頼を得られるよう関わりに努め、良好な関係が築けている。 ・自分がここで生活しているという立場になって物事を考え、日々の生活援助を行っている。 ・花や季節の野菜を庭で育て、利用者様と一緒に収穫や調理を行なっている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム梅林は園、城陽市の南東部に位置し自然豊かで広大な敷地に、社会福祉法人 和光会が平成15年8月に設立した。併設施設として、特別養護老人ホーム・居宅介護支援・通所介護・訪問入浴介護などがあり、総合老人福祉施設となっている。特に、施設内に診療所・長寿食研究開発センターを合わせ持っているのは、利用者にとって大変有難い事である。職員に対しては、託児所があり安心して業務に励めるのは、職員にとっても安心な事である。建物は新しくモダンに改築され、内部は広く清潔感にあふれている。随所に黄色の「笑顔」を表すシンボルマークが張られ、「長寿を元気に楽しく」の標語を実践に反映する様に努めている。グループホーム事業所に於いても、「暮らしのパートナーになる」を理念として、利用者の「思い」を大切に共に寄り添うケアを実践している。利用者には、安心して穏やかに過ごしている姿がみられる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念がある。リビングに張り出し誰でも確認が出来る。	法人の三つの基本理念として、「仁愛・誠実・研鑽」を挙げている。この理念に沿って「暮らしのパートナーになる」を事業所の理念として職員の話し合いで決めた。笑顔を大切にしながら、一人一人に寄り添うケアを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の特養を地域と考え、様々な特養の行事に参加し交流をしている。また、ショッピング等で外出の機会を多く持ち、顔馴染の店に買物に出かけている。	広い敷地を持つ総合老人福祉施設の中に在るグループホームなので、町内会には入っていない。地域の情報は、行政の広報紙や民生委員から得ている。青谷のコミュニティセンター主催の「地域の集まり」やNPO主催の「観運会」に参加している。事業所の行事である「夏まつり」には地域の方の参加が増えてきている。日常的には、併設の特養の方達との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところ地域の方々に向けての支援は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の日々の様子や取り組みについて報告している。家族と一緒に参加できる行事をして欲しいとの要望があり年末の餅つきを一緒に行なっている。	会議は、家族・民生児童委員・地域包括センター・行政・職員が参加している。写真資料を基に活動報告をして意見交換をしている。肺炎球菌の予防ワクチンの接種の話が出て、事業所では、園内の診療所で対応できる事を説明し安心してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域密着型サービス事業所連絡会議等に参加して頂き、連携、協力をさせていただいている。	市の担当職は運営推進会議のメンバーで事業所の状況はしっかり理解している。職員が市を訪問して議事録を手渡したり、書類の提出や相談をする等、連携・協力関係は出来ている。市主催の地域密着型サービス事業所連絡会議や事例検討会に参加して、アドバイスを貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で資料を基に話し合いを行った。インフルエンザに罹患された利用者がおられ、他の利用者への感染予防の為、家族に同意を得、短時間のみ居室の施錠をした。	法人は「身体拘束をしないケア」の研修を職員に対して行っている。参加出来なかった職員には、職員会議で伝達研修を行い全職員に周知させている。感染症に罹患された利用者も、他の利用者への伝染を予防する目的で自室で静養して貰おうと施錠したが、本人の理解が得られなかった。そこで、開錠し好きな物に集中出来る様に、本を読んだり、CDをかけたたりして気持ちが集中出来る様に見守った事例がある。この事例を基に職員で、拘束行為について話し合い学びの種にした。職員は、お互い行動の抑制をする様な言葉使い等に注意する様に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センターからの資料を基に話し合いを行なった。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている利用者もおられる。職員会議にて学ぶ機会を持った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時、入居契約時及び制度改正の際などに説明と同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	城陽市の介護相談員に月1回訪問していただいている。また、運営推進会議に家族も参加していただいて意見、要望を確認している。	運営推進会議や家族の来所時等に意見を聞きとったり、電話でも意見を聞いている。城陽市の介護相談員の来所時にも意見を聞いている。例えば、「トイレ誘導時の職員の声掛けが気になる」との指摘があったので、ミーティングで具体的な言葉使い・声掛けの方法を話し合い、理念に沿ったケアに繋げる様に改善した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎朝のミーティングで意見を出し合い、取り組みに生かしている。	朝のミーティングや職員会議・全体会議では、管理者等と職員が意見交換したり、提案が出し易い様な配慮をしている。職員からはケアに関しての意見が多く出る。例えば、利用者が重度化してきているので、2人介助が必要な場合の勤務体制についての意見に対し、勤務体制の見直しを図って職員の労働意欲を高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回人事考課を行い、気付きや自主性を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人内の職員研修に参加している。参加できなかった職員に対しては、書面やミーティング時に伝達を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	城陽市内の地域密着型サービス事業所が集まる連絡会議が年に2回あり、情報や意見の交換を行っている。また、同じメンバーで事例検討会も年に2回行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前に利用者や家族に対して面接を行い、身体状況や環境、本人の意向を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前に利用者や家族に対して面接を行い、家族関係や今後について家族の意向を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャとも連携し、必要に応じて他のサービスの紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、介護される側という線を引かずに、“暮らしを共にしている”という思いせ支え合う関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にレクレーションや誕生会に参加していただいたり、一緒に外出をしていただいたりしている。面会時には居室で一緒に時間を過ごして貰えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の友人が月に何度か尋ねてこられる方もおられる。居室でゆっくりと過ごしていただけるよう、お茶をお出ししている。懐かしさを感じられる取り組みを行い、「昔は・・・だったなあ」等と話が出来る環境を目指している。	利用者が、自宅におられた時の隣人が来所された時は、お茶を出したりしてゆっくり過ごして貰える様な配慮をしている。近くの馴染みのスーパーへ買い物に出掛けたり、誕生日に、家族と外食に出掛けられる場合や法事で帰宅される場合等、外出し易い様に、車の乗り降り等の手伝いを行っている。ゴルフの好きな利用者には、下肢筋力を鍛えるリハビリを取り入れるケアプランにして支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	利用者同士の関係性を職員全員が把握し、その方にあ った関わり方を見つけ見守り、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォ ローし、相談や支援に努めている	入院などによりグループホームでの対応が困難になっ た場合でも、定期的に状態の確認を行っている。(病院へ の訪問や家族連絡など)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面接の際に確認をし、入居後も日々の関わり の中で思いの把握に努めている。	利用者本人・家族の思いや意向は、入居前の訪問時に 聞き取ってアセスメントシートを作成している。入居後 は、利用者の日常の言動・表情・しぐさ等をケースファ イルに記録して職員で共有している。どんな場面で笑顔 が見られ・どんな言葉で不快感をだされるか?を細かく 見極めていく事で「その人を知る」様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時、入居前の面接時、入居時のアセ スメント時などに本人及び家族から聞き取りを行い、 把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合わせた日課を検討し、家事などや りがいを持って出来るよう支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計 画を作成している	毎月ケアプランに対してモニタリングを行っ ている。状態変化の際も本人や家族の意向を踏まえ、 アセスメント、ケアプランを作成している。	日常の状況をケースファイルに記録し、一か月毎に担 当介護職がまとめ、モニタリングしている。それを基 に、家族・看護職からは医療情報を得て担当者会議を 開き、介護計画を作成している。会議には、生活相談 員・看護職・介護部長・栄養士・担当介護職・管理者 が参加して意見交換している。介護計画は3か月毎 に行い、状態変化があれば、必要に応じて行っ ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を充実させ、ケアプランの見直し の際に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養に併設されたグループホームであり、入浴の際に特養のリフト浴を活用している。行事の際にも特養やデイサービスの利用者とも交流を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の支援により、外出の行事を計画したり、年末には昔ながらのしめ縄作りが体験できている。手芸や歌のボランティアの方々とも交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に希望の確認を行い、出来る限り希望に添えるよう対応を行なっている。病院受診は職員が同行し、日々の状態や変化を伝えている。	かかりつけ医の選択は、本人・家族の意向を尊重している。園内には、診療所があり併設事業所全般の健康管理を担っているが、必要に応じて他の協力医療機関の利用もしている。希望により診療所の医師の往診も可能で、訪問歯科の体制もある。薬管理は、一括して園の医務室が行っており、一日分を買っている。緊急時は看護職と診療所の連携で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養診療所の看護職員と連携し、定期的な巡回と健康状態の確認を行っている。職員は申し送り書及び口頭で看護職員に伝え、対応の指示を受けている。併設の特養も含めて24時間の看護師の体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的に病院に病状の確認に伺っている。必要な際には病状説明に同席するなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における看取り介護のマニュアルを作成し、職員全員が共通の認識を持ち対応に努めた。週1回、関係職員や家族が集まりカンファレンスを行い情報の共有や家族の思いの把握に努めた。	契約時に看取り介護の指針を家族に説明して同意書を得ている。状況により、家族・医療機関・看護職・生活相談員・介護職・管理者で話し合い、最良の方法を選択していく。過去に3例看取り介護を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに従って対応している。内部研修にて応急手当などの初期対応について訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、職員も防災意識を高める事が出来るように努めている。	法人全体で火災訓練を昼間想定で行い、通報・初期消火・避難の訓練を実施している。グループホームでは夜間を想定し実施する。その他、消防署の指導を受けて、AEDの使い方を学んでいる。備蓄は法人(栄養課)で準備している。災害時の対応として、城陽市と法人とで協定し施設全体が地域の人の広域避難場所になっている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助の際などの言葉掛け(声の大きさ、口調など)に注意し、尊厳に配慮した対応に心掛けている。	接遇マナーの研修は、外部研修を内部研修に繋げ、職員は自らの言動に注意しながら、利用者には不快感をもたれない様に、プライドを損なわない様に支援している。入浴は1:1で同性介護としている。トイレへの声掛けにも配慮して、他の人にはわからない様な声掛けを心掛けている。職員同志お互いに注意合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方々から思いを引き出せるように、同じ時間を職員も過ごせるように努めている。小さな事でも(食事の盛り付け方、衣類の決定など)本人の希望を聞き対応するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間は本人の希望に合わせて対応している。クラブや余暇などへの参加もご本人に希望を伺い対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の着替え準備や外出時の衣類などは、本人と相談しながら用意している。理髪はボランティアが来られる際をお願いしているが、希望があれば地域の理容室、美容室に付き添う事も出来る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事当番を曜日で決め利用者と一緒に食事作りを行っている。その方が出来る事を無理なく出来るように援助している。	献立は、法人の栄養課で一括して作成し、調理は事業所で職員と利用者が協力して行っている。曜日で当番を決めているので、利用者は自分の当番日を楽しみにしている。週一回は事業所で自由献立になっているので、利用者の好みで楽しみながら作っている。季節の行事食も楽しみになっており、外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを基に食事を作り提供している。残食量の確認や必要に応じて水分量のチェックを行っている。好みの水分をその方の好む適温で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自主的にされる方以外は、歯磨きの声掛けをし、必要に応じて介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を基に各自の排泄間隔の把握を行なうと共に、本人の訴えや排泄間隔を読み取って無理なくトイレ誘導し、排泄支援を行なっている。	排泄チェック表をつけて、パターンに合わせて誘導して、トイレでの排泄に成功している。入所して来られた時は常に紙パンツが濡れていたが、トイレ誘導をする事で紙パンツとパッドで過ごし、家族とも相談しながら布パンツとパッドで過ごせる方向で取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材は繊維の多い物を調理し、水分をしっかり摂れるように心掛けている。また、散歩やゲームなどで体を動かすように努めている。必要時には便薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は10時から17時の間で本人の希望する時間に入浴できるよう援助している。1ヶ月ごとに入浴日を決めているが、その日の気分や体調により、時間や日を変更して対応している。	入浴は、毎日10時～17時の間で本人の希望する時間に入っている。週2回の入浴を基本にしているが、希望によっては毎日入浴している。好みの湯音で1対1の介助をしている。柚子湯や入浴剤を使って喜ばれている。毎日の入浴者の名前をリビングのボードに貼り出している。ので、楽しみの一つになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体状況に応じて日中も休息を促している。夕食後はお茶を提供したり、お話をしたりゆったりと時間が過ごせるように対応している。利用者ご自身が就寝時間を決めて休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の一覧表を作成して把握を行ない、その効能や副作用がすぐに見られるように一覧表を作成している。内服薬の変更があった際にはその後の変化を記録し状態の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事への参加と余暇や行事への取り組みを通して、生活している実感と楽しみの充実を支援している。嗜好品も出来るだけ制限なく楽しめるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者からの希望を大切に出来る限り要望に沿えるよう対応をしている。園内の広場やお地蔵様へは希望があればいつでも散歩できるように対応している。また、家族が買物等の外出の援助を行なっている。	施設内のお地蔵さまにお参りしたり、広場等で散歩をしたり、桜や梅、紅葉等四季折々の季節を楽しみに毎日出掛けている。施設が広いので、事業所の外に出掛けなくても充分楽しめている。特養の利用者との交流もある。買い物は本人の希望で順番にショッピングに行っている。家族にも援助して貰って一緒に行く事もある。ドライブは運を見に行ったり、菜の花やイルミネーションを見に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常時現金を所持、管理している方もおられるが、その他の方は希望により、現金を事務所で立て替えて出金している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。母の日や誕生日のプレゼントのお礼のはがきを出している方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレにはいつも花を一輪飾るようにしている。リビングにも季節を感じられるような花や置物などをその都度飾っている。CDで童謡や歌謡曲をかけ食事や余暇が出来るようにしている。	リビングは、広く一人ひとりがゆっくり寛げる雰囲気、キッチン是对面式になっており、食堂と一体感があり料理をしている様子や匂いが食欲をそそる感じがする。畳の間も広く、大勢の家族が訪れてもゆったり出来るスペースになっている。ひな人形を飾ったり、室内に観葉植物や季節の花を飾り、潤いを持たずと共に季節感が感じられる。利用者と職員と一緒に作ったカレンダーや手づくりの小物が飾られ、明るさ・室温・湿度共に適度で居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、和室、リビング、食卓などで思い思いに過ごす事が出来るように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの物を持ち込んで貰っている。	居室は筆筒や洗面台、クローゼットが備え付けられ、窓が低く庭の木々や咲いている花々が見えて眺めの良い景観になっている。馴染みの物は利用者の作品や大好きだった犬の位牌や犬の縫いぐるみ、大切な仏壇を持ってきて毎日お茶を上げたり花を供えたり、時計やカレンダーを低い位置にかけると家族と一緒に部屋作りをして、居心地良く暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、廊下やトイレ、浴室にも介助バーや手すりを設置している。		